

コウモリについての意識と知識

前田喜四雄、平林美穂*¹、柳沢智子*²

(奈良教育大学自然環境教育センター研究室、現*¹西大寺幼稚園、*²天理市立前栽幼稚園)

Feeling, Impression and Knowledge on Bats

Kishio MAEDA, Miho HIRABAYASHI, and Tomoko YANAGISAWA

(Education Center for Natural Environment,
Saidaiji Kindergarten, and Senzai Kindergarten)

内田(1985)によると、コウモリは中国や台湾では非常におめでたい動物とされているが、日本ではあまり好感を持たれていない、中・南米では動物の中で最も嫌われているなど、国や地域によってコウモリに対する人間の感情や好みが非常に異なっているという。

一方、環境庁自然保護局野生生物課(1991)によると、絶滅のおそれのある野生動物に種名のあげられている日本産哺乳類62種(亜種や地域個体群も含む)のうち、コウモリ類は19種であり、30.6%も占める。すなわち、コウモリ類について早急になんらかの保護対策が取られなければならない。そのための資料の一つとして、コウモリ類に対する日本人の意識や感情を明確に知っておく必要がある。しかし、実際に日本人が現在コウモリについてどのような意識、感情、あるいは印象を持っているかという調査や研究は全く公表されていない。したがって、日本人のコウモリに対していただいている印象、その印象を持つようになった要因や時期について、およびコウモリに関する知識の程度などについてのアンケート調査を試みた。

方法

奈良教育大学において、小学校の教師をめざす学生の必須教科である教科「生活」を受講している2年生を中心とする学生に対して、1995年4月に付表1に示すようなコウモリについて抱いている印象やコウモリについての知識に関するアンケート調査を行った。

また、同年5月に奈良市にある奈良公園を訪れた人の中からアンケート回答者を無作為に選出し、個別に直接口頭で質問する対面調査を実施した。アンケートの内容は年齢区分が異なる他は同じであった。

表1 奈良公園で試みたアンケート調査に回答した人の年齢構成(名)

	15-20歳	21-25歳	26-30歳	31-35歳	36-40歳	41-50歳	51-60歳	61-71歳	合計
男性	4	1	5	2	1	2	4	6	25
女性	3	6	3	2	6	6	6	0	32
合計	7	7	8	4	7	8	10	6	57

結果

奈良教育大学学生対象では男子70名、女子134名、合計204名からアンケートの回答を得た。なお、年齢はすべて19歳から22歳にかけてであった。

奈良公園では、男性25名、女性32名、合計57名に対面調査をした。年齢構成を表1に示したが、その構成に特別な偏りは見られなかったといえる。

以下、アンケート項目にしたがって結果を述べる。

1. コウモリに対する全体的印象（表2）

学生では「良い」が2.7%、「悪い」が22.9%、奈良公園からのでは前者が3.5%、後者が68.4%であり、いずれも「良い」は大変少なく、「悪い」が圧倒的に多い。なお、特に良くも悪くもないというのが、学生では74.4%と多かったのに対し、奈良公園での回答は28.1%と特に多くなかった。また、奈良公園で「良い」と答えた人は17歳と24歳の若者2名だけであった。なお、「悪い」と回答した24歳以下の比較的若い人は8名（若い人13名のうちの61.5%）、それ以外は31名（それ以外の人44名中の70.5%）であった。一方、そのどちらでもないと回答した人のうち若い人は3名（23.1%）、それ以外の人13名（29.5%）であった。

男女別にみると、コウモリについての全体的印象が「悪い」学生では女性が28.2%に対して、男性では13.0%と少なかった。また、奈良公園からの回答では、男性56.0%、女性78.1%と学生同様に女性が多かった。

表2 コウモリに対する全体的印象についての回答結果

	学 生						奈 良 公 園					
	全 体		男 性		女 性		全 体		男 性		女 性	
	名	割合 (%)	名	割合 (%)	名	割合 (%)	名	割合 (%)	名	割合 (%)	名	割合 (%)
良 い	14	2.7	7	3.8	7	2.1	2	3.5	1	4.0	1	3.1
悪 い	60	22.9	12	13.0	48	28.2	39	68.4	14	56.0	25	78.1
その他	130	74.4	51	83.2	79	69.7	16	28.1	10	40.0	6	18.8
合 計	204	100.0	70	100.0	134	100.0	57	100.0	25	100.0	32	100.0

2. コウモリに対する具体的印象（表3）

学生では「気持ち悪い」(34.3%)と「怖い」(31.9%)の選択肢が最も多く選ばれ、次いで「可愛い」(24.0%)と「血を吸う」(22.5%)が多かった。一方、奈良公園では「気持ち悪い」(52.6%)が最も多く、次いで「血を吸う」(28.1%)が多く選ばれた。学生で「可愛い」という選択肢がやや多く選ばれた他は、コウモリは負の印象をもって見られていることが明確になった。

表3 コウモリに対する具体的印象の内訳についての回答結果

選 択 肢	学 生						奈 良 公 園					
	全体	性 別		全体的印象別			全体	性 別		全体的印象別		
		男性	女性	良い	悪い	その他		男性	女性	良い	悪い	その他
可愛い(名) (回答者数に対する割合、%)	49 (24.0)	14 (20.0)	35 (26.1)	10 (20.4)	3 (6.1)	36 (73.5)	6 (10.5)	2 (8.0)	4 (12.5)	1 (1.8)	3 (5.3)	2 (3.5)
賢い(名) (回答者数に対する割合、%)	35 (17.2)	16 (22.9)	19 (14.2)	4 (11.4)	7 (20.0)	24 (68.6)	10 (17.5)	5 (20.0)	5 (15.6)	0	7 (12.1)	2 (3.5)
役立つ(名) (回答者数に対する割合、%)	5 (2.5)	0	5 (2.5)	1 (20.0)	1 (20.0)	3 (60.0)	2 (3.5)	2 (8.0)	0	0	5 (8.8)	5 (8.8)
怖い(名) (回答者数に対する割合、%)	65 (31.9)	11 (15.7)	54 (40.3)	1 (1.5)	36 (55.4)	28 (43.1)	9 (15.8)	4 (16.0)	5 (15.6)	1 (1.8)	0 (0.0)	1 (1.8)
気持ち悪い(名) (回答者数に対する割合、%)	70 (34.3)	20 (28.6)	50 (37.3)	1 (1.4)	44 (62.9)	25 (35.7)	30 (52.6)	11 (44.0)	19 (59.4)	0	27 (47.4)	3 (5.3)
血を吸う(名) (回答者数に対する割合、%)	46 (22.5)	15 (21.4)	31 (23.1)	2 (4.3)	21 (45.7)	23 (50.0)	16 (28.1)	11 (44.0)	5 (15.6)	2 (3.5)	9 (15.8)	5 (8.8)
別に(名) (回答者数に対する割合、%)	40 (19.6)	13 (18.6)	27 (20.1)	1 (2.5)	5 (12.5)	34 (85.0)	7 (12.3)	1 (4.0)	6 (18.8)	0	3 (5.3)	4 (7.0)
その他(名) (回答者数に対する割合、%)	29 (14.2)	17 (24.3)	12 (9.0)	4 (13.8)	2 (6.9)	23 (79.3)	5 (8.8)	2 (8.0)	3 (9.4)	0	4 (7.0)	1 (1.8)
延べ合計(名)	339	106	233	24	119	196	85	38	47	4	58	23

男女間に大きな差がみられるのは、男性学生の「怖い」が15.7%に対して女性が40.3%と非常に多い、さらに奈良公園からのもので「血を吸う」が男性で44.0%に対して女性が15.6%と大変少ないというものである。

3. コウモリに対する現在の印象をもつに至った要因（表4）

学生では「テレビ・映画など」が50.0%と最も多く、次いで32.8%の「実際に見て」、27.5%の「本」に続く。公園においてもこの順序は同じであり、各々47.4%、33.3%、17.5%であった。また男女別にみても、学生および奈良公園ともこの順序に変わりはない。さらに、コウモリに対して「良い」印象をもつ学生、「悪い」印象をもつ奈良公園でのアンケート回答者においてもその順序は同じであった。しかし、「悪い」概念をもつ学生では「テレビ・映画など」（68.3%）からの影響に次いで、「本」からのものが31.7%と多く、「実物を見て」は21.7%で3番目になり、他における順序とは異なった。

表4 コウモリについての印象が定まった原因に関する回答結果

選 択 肢	学 生						奈 良 公 園					
	全体	性 別		全体的印象別			全体	性 別		全体的印象別		
		男性	女性	良い	悪い	その他		男性	女性	良い	悪い	その他
親（名） （回答者数に対する割合、%）	7 (3.4)	1 (1.4)	6 (4.5)	0 (0.0)	2 (3.3)	5 (3.8)	0	0	0	0	0	0
教師（名） （回答者数に対する割合、%）	2 (1.0)	0	2 (1.5)	0	0	2 (1.5)	0	0	0	0	0	0
友人（名） （回答者数に対する割合、%）	4 (2.0)	2 (2.9)	2 (1.5)	0	1 (1.7)	3 (2.3)	0	0	0	0	0	0
本（絵本）（名） （回答者数に対する割合、%）	56 (27.5)	19 (27.1)	37 (27.6)	4 (28.6)	19 (31.7)	33 (25.4)	10 (17.5)	4 (16.0)	6 (18.8)	1 (50.0)	6 (15.4)	3 (18.8)
TV・映画等（名） （回答者数に対する割合、%）	102 (50.0)	37 (52.9)	65 (48.5)	8 (57.1)	41 (68.3)	53 (40.8)	27 (47.4)	12 (48.0)	15 (46.9)	0	18 (46.2)	9 (56.3)
実際に見て（名） （回答者数に対する割合、%）	67 (32.8)	23 (32.9)	44 (32.8)	6 (42.9)	13 (21.7)	48 (36.9)	19 (33.3)	7 (28.0)	12 (37.5)	1 (50.0)	12 (30.8)	6 (37.5)
その他（名） （回答者数に対する割合、%）	16 (7.8)	4 (5.7)	12 (9.0)	0	2 (3.3)	14 (10.8)	2 (3.5)	1 (4.0)	1 (3.1)	0	2 (5.1)	0
延べ合計（名）	254	86	168	18	78	158	58	24	34	2	38	18

4. コウモリに対する印象をもつようになった時期（表5）

学生ではコウモリに対する印象をもつようになった時期で最も多かったのは68.9%の5歳から9歳にかけてであり、以下20.3%の10歳から14歳にかけてであった。一方、奈良公園における調査では、その時期は小学校低学年の41.5%が最も多く、次いで高校卒業以後の19.5%、以下幼稚

表5 コウモリについての印象が定まった時期についての回答結果

選 択 肢	学 生（名）				奈 良 公 園（名）				
	全体	全体的印象別			選 択 肢	全体	全体的印象		
		良い	悪い	その他			良い	悪い	その他
0-4歳	4	0	2	2	幼稚園以前	1	0	1	0
5-9歳	94	4	47	43	幼稚園	6	0	5	1
10-14歳	65	8	7	50	小学低学年	24	0	5	1
					小学中高学年	4	0	4	0
15-19歳	35	2	4	29	中 学	5	1	3	1
20歳以降	1	0	0	1	高 校	1	0	1	0
回答なし	5	0	0	5	それ以降	15	0	8	7
回答なし	5	0	0	5	回答なし	1	1	0	0
合 計	204	14	60	130	合 計	57	2	39	16

園の12.2%、小学校中学年と中学校の9.8%となった。なお、奈良公園で比較的多かった高校卒業以後という8名のうち、4名（すべて50歳から60歳）は最近「テレビ・映画など」を見て、2名は最近「実際に見て」、1名は最近「本を読んで」、1名は覚えていないということであった。

5. コウモリを実際に見た経験（表6）

実際にコウモリを見たことがある人は学生で75.5%、公園でも73.7%と非常に高かった。男女別では奈良公園での男性が84.0%と女性の65.6%より高かった。学生において男女は78.6%、73.9%と差が少なかったが、やはり男性が高かった。しかし、実際に見たことがあるといっても、これには動物園などでの経験も含まれているものと思われる。その証拠に、後述する食べ物調査で、果物を多くの人があげていることからそれが伺われる。一方、テレビでしか見たことがない人は、学生で24.0%、奈良公園では21.1%であった。

コウモリについて「良い」印象をもっている学生のうち、実際にコウモリを見たことがある人は85.7%、テレビでしか見たことがなかった人は14.3%と両者に大きな差があった。一方、「悪い」印象をもっている人で、コウモリを実際に見たことがある人は63.3%、テレビでしか見たことがなかった人は35.0%と「良い」でみたよりは両者に差が少なかった。また、「悪い」印象をもっていると答えた奈良公園において、実際にコウモリを見たことがある人は69.2%だったのに対して、テレビのみで見た人は23.1%とその差は「良い」と答えた学生における実物を見たのと

表6 コウモリを見たことの経験の有無に関する回答結果

選 択 肢	学 生						奈 良 公 園					
	全体	性 別		全体的印象別			全体	性 別		全体的印象別		
		男性	女性	良い	悪い	その他		男性	女性	良い	悪い	その他
実際に見た（名） （割合、%）	154 (75.5)	55 (78.6)	99 (73.9)	12 (85.7)	38 (63.3)	104 (80.0)	42 (73.7)	21 (84.0)	21 (65.6)	2 (100.0)	27 (69.2)	13 (81.3)
テレビや本で（名） （割合、%）	49 (24.0)	14 (20.0)	35 (26.1)	2 (14.3)	21 (35.0)	26 (20.0)	12 (21.1)	3 (12.0)	9 (28.1)	0	9 (23.1)	3 (18.8)
名前だけ（名） （割合、%）	1 (0.5)	1 (1.4)	0	0	1 (1.7)	0	1 (1.8)	0	1 (3.1)	0	1 (2.6)	0
全然知らない（名） （割合、%）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
回答なし（名） （割合、%）	0	0	0	0	0	0	2 (3.5)	1 (4.0)	1 (3.1)	0	2 (5.1)	0
合計（名）	204	70	134	14	60	130	57	25	32	2	39	16

テレビのみの差ほど大きくなかった。

6. 科学的に書かれた本の読書経験（表7）

科学的に書かれたコウモリに関する本を読んだことがある人は、学生で14.2%と少なく、奈良公園におけるものでは1.8%とさらに少なかった。科学書を読んだ学生のうち、コウモリについ

表7 コウモリについて科学的に書かれた本の読書経験の有無に関する回答結果

選 択 肢	学 生（名）				奈 良 公 園（名）			
	全体	全体的印象別			全体	全体的印象別		
		良い	悪い	その他		良い	悪い	その他
読んだ（名） （割合、%）	29 (14.2)	3 (21.4)	2 (3.3)	24 (18.5)	1 (1.8)	0	1 (2.6)	0
無し（名） （割合、%）	174 (85.3)	10 (71.4)	58 (96.7)	106 (81.5)	53 (93.0)	2 (100.0)	36 (92.3)	15 (93.8)
回答なし（名） （割合、%）	1 (0.5)	1 (7.1)	0	0	3 (5.3)	0	2 (5.1)	1 (6.2)
合 計	204	14	60	130	57	2	39	16

て「良い」概念をもっている人と「悪い」概念をもっている人で差は認められなかった。

7. コウモリについての知識 (表8、9)

コウモリは哺乳類の仲間であると正しく認識している人 (表8) は、学生で91.7%と非常に高かったのに対して、奈良公園でのそれは73.7%と低かった。なお、鳥、および爬虫類と答えた人は奈良公園で各々10.5%であった。一方、学生ではそれよりかなり低い、それでも各々2.5%、2.9%もいた。

表8 コウモリの仲間に関する知識についての回答結果

選 択 肢	学 生 (名)				奈 良 公 園 (名)			
	全体	全体的印象別			全体	全体的印象		
		良い	悪い	その他		良い	悪い	その他
哺乳類 (名)	187	14	56	117	42	2	27	13
割合 (%)	(91.7)	(100.0)	(93.3)	(90.0)	(73.7)	(100.0)	(69.2)	(81.3)
鳥・哺乳類*1 (名)	1	0	0	1	0	0	0	0
割合 (%)	(0.5)			(0.8)				
鳥類 (名)	5	0	1	4	6	0	6	0
割合 (%)	(2.5)		(1.7)	(3.1)	(10.5)		(15.4)	
爬虫類 (名)	6	0	2	4	6	0	3	3
割合 (%)	(2.9)		(3.3)	(3.1)	(10.5)		(7.7)	(18.8)
両生類 (名)	2	0	1	1	1	0	1	0
割合 (%)	(1.0)		(1.7)	(0.8)	(1.8)		(2.7)	
昆虫類 (名)	0	0	0	0	0	0	0	0
割合 (%)								
その他 (名)	0	0	0	0	1	0	1	0
割合 (%)					(1.8)		(2.7)	
回答なし (名)	3	0	0	3	1	0	1	0
割合 (%)	(1.5)			(2.3)	(1.8)		(2.7)	
合 計	204	14	60	130	57	2	39	16

*1 : 鳥と哺乳類の両者を選択

表9 コウモリの食性についての知識調査の回答結果

選 択 肢	学 生 (名)				奈 良 公 園 (名)			
	全体	全体的印象別			全体	全体的印象		
		良い	悪い	その他		良い	悪い	その他
昆虫 (名)	135	11	33	91	45	1	32	12
(回答者数に対する割合、%)	(66.2)	(78.6)	(55.0)	(70.0)	(78.9)	(50.0)	(82.1)	(75.0)
果物 (名)	61	6	11	44	9	0	5	4
(回答者数に対する割合、%)	(29.9)	(42.9)	(18.3)	(33.8)	(15.8)		(12.8)	(25.0)
木の葉 (名)	26	0	12	14	3	0	3	0
(回答者数に対する割合、%)	(6.9)		(20.0)	(10.8)	(5.3)		(7.7)	
木の实 (名)	72	5	17	50	12	0	8	4
(回答者数に対する割合、%)	(35.3)	(35.7)	(28.3)	(38.5)	(21.1)		(20.5)	(25.0)
花の蜜 (名)	16	2	5	9	0	0	0	0
(回答者数に対する割合、%)	(7.8)	(14.3)	(8.3)	(6.9)				
血液 (名)	15	0	3	12	8	1	5	2
(回答者数に対する割合、%)	(7.4)		(5.0)	(9.2)	(14.0)	(50.0)	(12.8)	(12.5)
小動物 (名)	45	1	16	28	6	0	5	1
(回答者数に対する割合、%)	(22.1)	(7.1)	(26.7)	(21.5)	(10.5)		(12.8)	(6.3)
その他 (名)	1	0	0	1	2	1	1	0
(回答者数に対する割合、%)	(0.5)			(0.8)	(50.0)	(2.6)		
合計 (名)	371	25	97	249	85	3	59	23

コウモリの食べ物についての知識調査の結果を表9に示す。「昆虫」と答えた人は学生で66.2%、奈良公園で78.9%と最も高かった。学生では次いで、「木の実」(35.3%)、「果物」(29.9%)、「小動物」(22.1%)となり、選択肢の残り「花の蜜」、「血液」、「葉」では6.9%から7.8%であった。奈良公園での結果は、「木の実」(21.1%)、「果物」(15.8%)、「血液」(14.0%)と続き、学生とはやや異なる。この質問項目は「日本にすむ数多くのコウモリは何を食べていると思いますか」ということで、正解は「昆虫」だけである。この回答は多かったとはいえ、誤った知識もかなりあった。また、この中で「果物」との回答が多かったが、これは動物園で飼育が可能なコウモリは果物を食べるコウモリのみであり、動物園での観察の影響を受けたものと思われる。

まとめと考察

コウモリについての全体的印象は良くない人が非常に多く、女性でこの傾向が強かった、ということが想像ではなく、事実として確認された。また、悪い印象をもっている人は学生よりも、奈良公園の人が圧倒的に多かった。これは、良い印象をもった人の比率は両者ではほとんど差がなかったことから、学生では印象がまだ定まっていなかったことに因るものと思われる。一方、奈良公園における調査では若い人とそうでない人の間で選択傾向にそれほど差がなかったことから、学生に「良い悪いのどちらでもない」が多かったことは以下のように考えられる。すなわち、今後に種々の影響によりその印象が固まっていくのか、あるいは教育学部で小学校の教師になろうとしている学生は一般的な人たちよりその考えが異なるのかのどちらかであると思われるが、今回の資料のみから結論は出すことが不可能であろう。

コウモリについての具体的印象については、いずれもコウモリに対して「気持ち悪い」の印象をもっとも多くいदैており、次いで「血を吸う」という印象をもっているが、学生については「可愛い」という印象が2番目に多かった。しかし、この「可愛い」が選ばれた数とコウモリについての「良い」という回答者数の間に3.5倍とかなりの差があったことは、「可愛い」という印象だけからコウモリについての全体的印象が決定されるものではないことを示唆するものと思われる。

一方、女性だけをみると学生では圧倒的に「怖い」が多いのに対して、奈良公園では「気持ち悪い」が過半数以上と多かった。男性だけでは学生にはどの具体的印象が多く選ばれたかという顕著な傾向は少なく、奈良公園では「血を吸う」がかなり多かったが、この傾向についても推測ができないし、また、男性に「血を吸う」という印象をもった人がなぜ多かったのかについても不明である。

上記の印象をもつに至った要因の中で「血を吸う」の印象が想像どおり多かったことについては、やはりテレビや映画の人に与える影響は強く、本でもかなりの影響を受けていることが伺われる。これは映画、小説やテレビドラマの中では、コウモリの本当の姿ではなく、ドラキュラやバンパイアから想像されるような概念でコウモリを登場させていることに因るものと想像される。一方「実際に見て」というのも多かったことに対しては、理解に苦しむ。おそらく予備知識を全くもつことなしに観察する機会をもったのではなく、何らかの予備知識をもった後で実物を見たことに因ると想像する以外にここでは考えられない。

コウモリについての印象が定まった時期は、小学校低学年が非常に多かったが、年をとってからテレビや映画を見てという人もおり、これらの影響の強さが再確認される。

コウモリの姿を実際に見たことがある人が4分の3と想像以上に多かったが、前述したように野外で自然の姿のコウモリではなく、動物園での経験もかなり含んでいると思われる。また、実際にコウモリを見たことがある人の方が、「良い」印象をもっている割合が高いという今回の結果は、実際にコウモリを見ることはコウモリについての「良い」印象をもつことに正の相関があ

ることを示唆したものといえよう。

コウモリについて科学的に書かれた本を読んだ人は非常に少なかった。これはこのような本が内田（1985）や前田（1990a）などがあるのみで、大変少ないことを反映していると思われるが、それでも学生は14.2%もコウモリについての科学書を読んでいた。日本ではコウモリについての研究者はきわめて少なく、したがってこれまでの研究成果も多くないが、しかしそれでもその研究成果をふまえたコウモリについての一般向けの本を出版する努力をすべきであろう。

都市部の周辺部や人家周辺にもアブラコウモリは生息しており、比較的身近な存在である（前田、1990b）にも関わらず、コウモリが哺乳動物でないと思っている人が少ないながら存在するが、幸いなことに学生では非常に少ないことが救いとなる。

食性の知識調査では正解の「昆虫」はあまり多くなかった。これは世界中の大多数のコウモリが昆虫を餌にしているにもかかわらず、夜に飛翔している昆虫を捕まえて食べるという映像を撮影するのが極めて困難なこと、一方、果実、花の蜜、血液を餌にしている映像は比較的簡単に撮れることにより、一般的に流れる映像が一部の特殊な種に偏っていることに起因しているものであろう。すなわち、私たちの身近にも小さな昆虫を餌にする前述のアブラコウモリが生息しているわけであるが、それらよりも映像からの影響の方をしぜんに強く受けてしまうという結果と想像される。

引用文献

- 環境庁自然保護局野生生物課. 1991. 日本の絶滅のおそれのある野生動物—レッドデータブック—脊椎動物編. 日本野生動物研究センター、東京、pp.331.
- 前田喜四雄. 1990a. コウモリのふしぎな世界—自然界での役割. 大日本図書、東京、pp.36.
- 前田喜四雄. 1990b. コウモリアパート. C & D, 22(86) : 36—41.
- 内田照章. 1985. こうもりの不思議. 球磨村森林組合、熊本県、pp.146.

付表1 奈良教育大学学生に対して行ったアンケートの用紙

コウモリに関するアンケート

課程 専攻 年 齢 (歳) 性 別 (男 ・ 女)

1. あなたはコウモリに対してどのようなイメージをもっていますか。
(あ) 良いイメージ (い) 悪いイメージ (う) どちらももっていない
2. 次の中にあなたがコウモリに対してもっているイメージにあうものがあれば、丸をつけてください(複数回答可)。
(あ) かわいい (い) こわい (う) 賢い (え) 役に立つ (お) 気持ち悪い
(か) 血を吸う (き) 別にいてもいなくてもよい (け) その他 ()
3. そのイメージは誰によって、または何によってもつようになりましたか。
(あ) 親 (い) 教師 (う) 友人 (え) 本(絵本) (お) テレビ・映画など
(か) 実際に見て (き) その他 ()
4. そのイメージはいつ頃からもつようになりましたか。
(あ) 0-4歳 (い) 5-9歳 (う) 10-14歳 (え) 15-19歳 (お) 20歳以降
5. 次の中から当てはまるものに丸をつけて下さい。
あなたはコウモリを
(あ) 実際に見たことがある (い) テレビや本で見たことがある
(う) 見たことはないが名前だけは知っている (え) 見たことも聞いたこともない
6. あなたは今までにコウモリについて科学的に書かれた本を読んだことがありますか(子ども向けでもよい)。
(あ) はい (い) いいえ
7. コウモリは何類に属すると思いますか。
(あ) 鳥類 (い) 哺乳類 (う) 爬虫類 (え) 両生類 (お) 昆虫類
(か) その他 ()
8. 日本にすむ数多くのコウモリは何を食べていると思いますか(複数回答可)。
(あ) 木の葉 (い) 果物 (う) 木の实 (え) 血液 (お) 昆虫
(か) 花の蜜 (き) 小動物(ネズミなど) (く) その他 ()